



▶体験学習で未来のデザイナーを！

今回の取材先は、株式会社 Studio 23（スタジオ・ツースリー）の兵頭社長。

埼玉県でデザイン会社を経営する一方で、美波町で何度か仕事に携わるうちに「自分が作成したものに対し、住民の反応がダイレクトに感じられる美波町での仕事は面白い！この町での仕事にもっと関わりたい！」と考え、2013年に地域ブランディング事業を行う新会社として恵比須浜字田井の文化交流施設（現在は中村町に移転）に Studio23 を新設しました。今までに、ちょうさのポスター作成や美波町の商品デザインなども行なっています。

また、子どもたちがデザインに興味を持つきっかけをつくりたいという想いから、小・中学校で体験型のデザイン授業も開催しました。授業を通じてデザインというものに初めて触れ、そこからデザイナーに興味を持つ生徒も多いんだとか。

「父がデザイン関係の仕事で、自分は幼い頃からデザインに触れる機会は多かったが、そういった機会がないとイメージを持つのは難しいと思う。できるだけ多くの子どもたちが、デザイナーに興味を持ってくれるように、この授業を続けていきたい。」と出前授業への意気込みを語る兵頭さん。

兵頭さんの授業から、デザイナーが生まれる日も近いかもしれませんね！



教育の可能性、広がる

美波町、一般社団法人ミライの学校、学校法人新渡戸文化学園の三者が「旅する学校」プロジェクトに関する連携協定のオンライン調印式を行いました。

「旅する学校」の一環として、インターネット環境が整備されたサテライトオフィスでの授業や漁業・農業などを体験できるフィールドワークの実施を検討しており、新渡戸文化学園の生徒が美波町へ訪れる予定となっています。

都市部で暮らす学生は、地方の人や自然との触れ合いを通じ、今まで体験したことのない環境

の中で多様な価値観が生まれ、生徒を受け入れる地方側は、関係人口の増加などの双方に恩恵があるこのプロジェクト。コロナ禍が終息し、生徒たちが美波町を訪れる日が待ち遠しいですね！

